

令和3年度
事業報告書

(令和3年4月1日から令和4年3月31日まで)

東京都豊島区高松三丁目6番7号

学校法人 豊南学園

< I > 法人の概要

(1) 建学の理念・精神

本学校法人豊南学園は、秋田県出身の西宮藤朝によって昭和 17 年に財団法人豊南学園として設立、旧実業学校令による豊南商業学校を設置したことに始まり、以来 80 年にわたり「自主独立の建学の精神を発揚し社会に寄与できる人材の育成」を目標としてきた教育機関であります。

西宮藤朝は、大正 3 年早稲田大学文学部英文科を卒業後、早稲田文学社に入社し、島村抱月先生より 5 名の若手編集同人のひとりとして委嘱され、主に詩歌部門を担当しました。同 13 年より早稲田大学、同 14 年より立正大学講師として教壇に立ち、哲学・英語・フランス語の講座を担当し、その間に、詩歌、芸術、倫理、哲学等に関する数々の論文・著書を出版しました。

その頃から、少年並びに青年教育の在り方についての抱負と、国民性の陶冶は大学以前において行われるべきことを主張しておりました。この『青少年に対する深い教育愛』という一連の情熱は、フランスの哲学者・スピノザの教育論に根ざしています。すなわち「人間の持つ合理性の能力が、人間の生物的法則の活動を調整する。この合理性の能力を養うところに教育の意義がある」というものであり、

これが、創立時に作成した教育方針、

- 一. 『責任感の強い自主独立の精神を涵養する』
- 二. 『明朗闊達な民主的人物を作ろうとする』
- 三. 『自由放逸の自然性を合理的・道徳的に向上させる』

に示されています。

これらを踏まえ、個々人の持てる勝れた個性の伸長を図る事の重要性を深慮され、「自主独立」の精神の涵養を校是としました。即ち「自分の足で歩ける人」「自分の頭で考えられる人になれ」といった、一人一人の人造りの肝要を説き、建学の精神としました。

また、昭和 29 年には、「次代を担う若い女性たちを、良き社会人、良き家庭人に育てる」ことを目的にした女子部を開設し、教育活動の本格的実践を目指しました。

この精神、西宮藤朝の遺志を受け継ぎ、「人間形成」を一步進める形で、第 3 代理事長・武田昭二が、昭和 58 年に信州豊南女子短期大学（現：信州豊南短期大学）を創設しました。初代学長・安津素彦先生を迎えて、建学の精神の涵養につとめながら高い知性と豊かな情操を培い郷土の文化を理解し、多様化する国際化社会にも対応の出来る勝れた人間像の育成を期してきました。

社会的・国際的混乱の続く現代においてこそ、このような建学の精神に沿い、学生・生徒そして保護者の信託に応える取り組みが求められているものと考えております。

(2) 沿革

昭和 17 年に西宮藤朝が東京都豊島区に財団法人豊南学園を創立し、旧実業学校令による豊南商業学校を設立しました。

その後、昭和 26 年学校法人に組織変更し、幼稚園、高等学校を設置、昭和 58 年学園創立 40 周年を機に創立者が生前から強い情熱を抱懷されていた大学設立の夢を信州豊南女子短期大学設置というかたちで結実するに至りました。学園創立当初からの「自主独立の建学の精神を発揚し、社会に寄与できる人間の育成」を教育理念とし、建学の精神である「自主独立」を具現化すべく、「人間教育」を教学の基本に置き教育にあたってきました。単に専門的学芸の教授研究、真理探究の場を提供するにとどまらず、情操、体育の面を含めた総合的な「人間形成」を教学の基本とし、地域社会の発展に尽力してきました。

昭和 17 年	財団法人豊南学園創立、旧実業学校令による豊南商業学校設置
昭和 19 年	豊南工業高校併置
昭和 23 年	豊南商業学校・豊南工業学校を豊南高等学校（普通課程）と改組改称
昭和 26 年	財団法人豊南学園を学校法人豊南学園に組織変更
昭和 29 年	豊南高等学校女子部新設
昭和 30 年	豊南幼稚園併置
昭和 37 年	豊南高等学校に商業課程併置
昭和 54 年	長野県辰野町に豊南学園教育研修施設として「王城山荘」を開設（62 年閉鎖）
昭和 56 年	創立 40 周年記念事業の一環として「信州豊南女子短期大学」設置を文部省に申請
昭和 58 年	信州豊南女子短期大学（国文科・英語科）開学
平成 12 年	国文科・英語科を「言語コミュニケーション学科」に改組転換 信州豊南短期大学に名称変更（男女共学）
平成 16 年	豊南高等学校男女共学に移行開始
平成 19 年	豊南高等学校商業科募集停止
平成 20 年	幼児教育学科設置（言語コミュニケーション学科の定員変更）

（３）設置学校等

信州豊南短期大学	長野県上伊那郡辰野町中山 7 2	学 長	森本 健一
豊南高等学校	東京都豊島区高松 3 丁目 6 番 7 号	学校長	守随 憲道
豊南幼稚園	東京都豊島区高松 3 丁目 6 番 7 号	園 長	守随 憲道

（４）各学校在籍者数（各年度の 5 月 1 日現在）

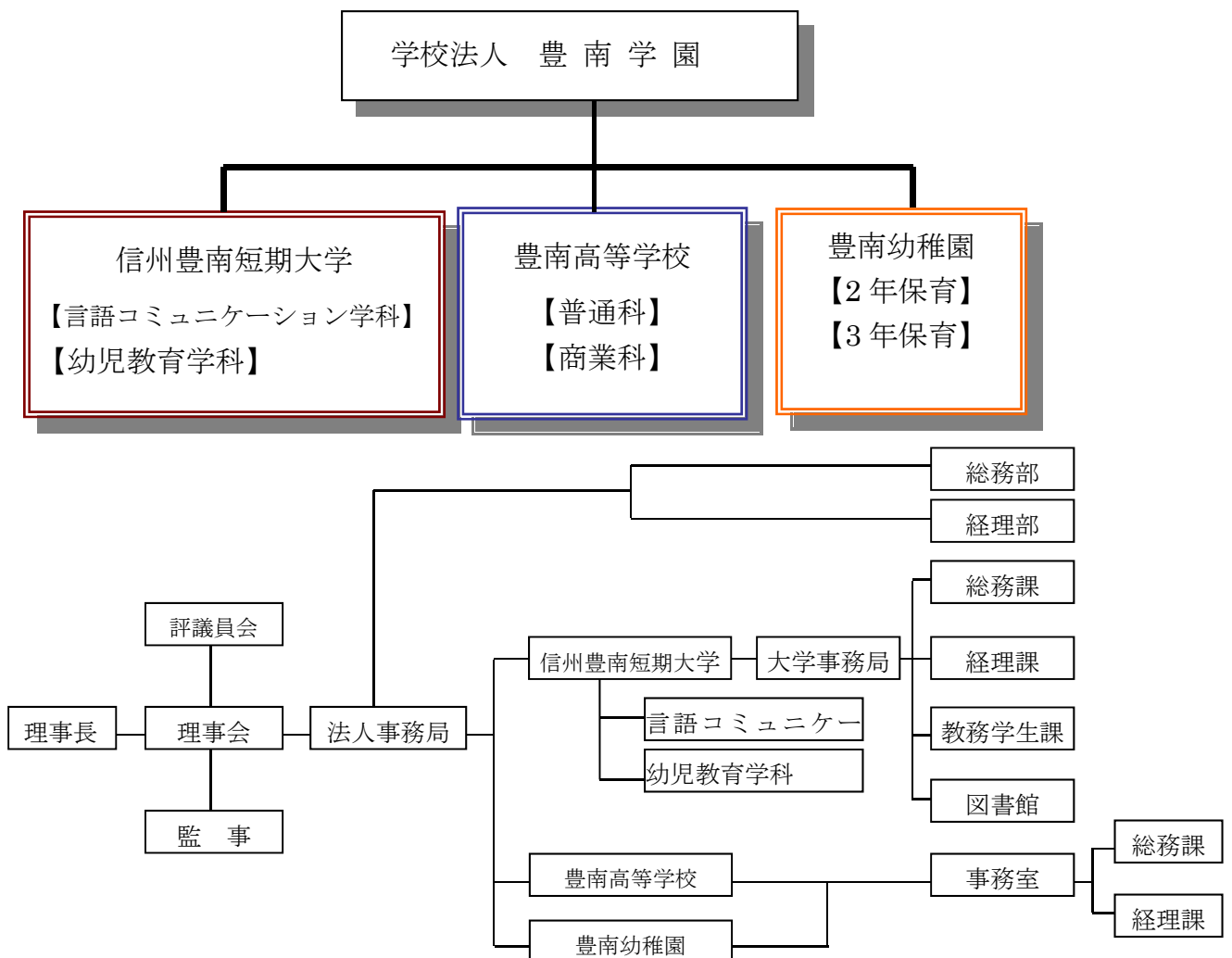
区分	25 年度	26 年度	27 年度	28 年度	29 年度	30 年度	31 年度	令和 2 年度	3 年度	4 年度
短大学生数	265 名	258 名	255 名	266 名	222 名	244 名	261 名	223 名	221 名	216 名
高校生徒数	639 名	689 名	714 名	924 名	925 名	936 名	838 名	899 名	930 名	1,050 名
幼稚園園児数	75 名	79 名	74 名	75 名	77 名	86 名	77 名	66 名	58 名	42 名
計	979 名	1,026 名	1,043 名	1,265 名	1,224 名	1,266 名	1,176 名	1,188 名	1,209 名	1,308 名

(5) 役員（理事・監事）に関する事項

役員及び教職員に関する情報（教職員は専任のみ・兼務含む）令和4年5月1日現在

役員			本部	信州豊南 短期大学	豊南高等学校	豊南幼稚園
理事	7名	教員	0名	17名	49名	5名
監事	2名	職員	1名	11名	10名	0名
評議員	15名					

(6) 組織図



<Ⅱ>．事業の概要

信州豊南短期大学

I 当該年度の主な事業の概要および進捗状況

1.事業の主な目的・計画

(1) 教育改革

- ①学習成果と3つのポリシー（アドミSSIONポリシー、カリキュラムポリシー、ディプロマポリシー）の点検見直しによる教育改革を推進する。
- ②単位制度の実質化を図る観点からシラバス等の点検を行い、学生による授業時間以外の準備のための学習の推進を図る。
- ③GPA制度の適切な運用を図り、各学科の教育目標の達成、学習成果の獲得に向けて厳格な成績評価の実施を推進する。
- ④各学科によるナンバリング等の検討を通じ個々の科目の位置づけを明確にし、新法対応カリキュラムが完成年度を迎えることから、その趣旨等を十分確認、共有したうえで教育にあたる。
- ⑤2020年から導入が加速したICT活用による教育のさらなる充実を図る。

(2) 学生支援

- ①進路指導のさらなる強化を図る。
- ②「教育改革1.の②」の実施にともないGPAを用いた学生指導を導入し、学期ごとに学生相談及び指導期間を設け学生支援のさらなる充実を図る。
- ③国による奨学金制度等開始に伴う対応を図る。
- ④課外活動、地域での活動等の活性化を図る。
- ⑤学生指導へのICTの活用をより一層促進し、学生指導の充実を図る。

(3) 研究推進

- ①教員の教育能力の増進を目的に積極的にFD（ファカルティ・ディベロップメント）活動に取り組む。
- ②研究倫理及び研究費不正使用防止のための研修会の充実を図る。

(4) 運営管理（学生募集含む）および設備投資

- ①学長のもとに教学マネジメント会議を立ち上げ、教育目的達成のために主に以下の点について適切な管理運営を行う。
 - ・3つのポリシーに基づく学習目標の具現化
 - ・授業科目・教育課程の編成
 - ・学習成果の可視化
 - ・上記3項目の実現のためにFD（ファカルティ・ディベロップメント）SD（スタッフ・ディベロップメント）のさらなる充実推進を図る
 - ・教育情報の公表
 - ・自己点検評価の推進及び認証評価機関による評価に向けた取り組みを行う。

- ②大学入試改革の状況を踏まえ、入試制度等の見直しを実施するとともに SNS 等の活用した広報の充実、募集活動の点検を行い、幼児教育学科の募集状況の回復と言語コミュニケーション学科の入学増を図る。
- ③公開講座等の開講を検討。参加者に科目等履修生制度、社会人入学制度の周知を図りこれらの制度を利用した入学者の回復を図る。
- ④校舎及び施設設備の補修・改修を実施する。

2、進捗状況

前年度末に翌年度の事業計画を上記のように計画し、進めていくことにしていたが、コロナウイルス感染症への対応が急務となり、計画通りに進まないことが多くなってしまった。対面による学習機会の確保と感染リスクを避けるためのオンライン授業の実施、実習の受け入れ問題、企業等の就活セミナーの延期や中止、行事や各種催し物の中止など次々に現れる新たなもの、計画時にはそこまで考えてはいないことへの対応に追われた。当初の計画に対する進捗状況は以下のとおりとなっている。

(1) 教育改革

- ①言語コミュニケーション学科、幼児教育学科において学習成果と 3 つのポリシーの点検見直しを行い、その結果を翌年に生かしている。令和 4 年度も令和 3 年度の見直しの結果を受け、学習成果等の関係から授業科目の開講時期の変更を行い、カリキュラムマップの見直しを実施した。
- ②ループリックについて前年度に引き続き採用し、各授業科目で見直しをお願いした。シラバスに準備学習等の項目を設け各回の授業にどのような準備をして臨めばよいのか、その具体的な内容及び単位制度の趣旨を踏まえた目安の時間を一昨年度から記載している。記載しただけでは実質化への第一歩にすぎないことから実際にどのように行っていけば授業外の学習時間を充実させることができるのか協議を重ねた。そのうえで一部の授業において事前の学習課題をクラウド上に掲載し、促進を図るなどの工夫が行われた。
準備学習の充実はいまだ十分ではないものの年度当初に計画した各学期のテストや課題の解説を加えた返却については、昨年度前期はコロナウイルスの関係で実施できなかったが、令和 3 年度は前期、後期とも行うことができた。復習といった形にはなるが、学生自らが提出したものが、どのように評価されたのかの説明等が行われ、学生のもとに手渡された。まだまだ十分ではないものの今後も工夫を重ねる授業時間以外の学習の増進につながるよう検討していく。
- ③厳格な成績評価についてはガイダンス等での GPA 等に対する十分な理解とシラバスの見方等の説明を行うところから始め、各授業の初回にシラバスを用いて成績評価について説明を行うこととした。加えて学期ごとの成績表の配布及びテスト等の返却時に、再度 GPA についても詳しく説明をおこなった。これらのことを通じて成績をつける教員側も今一度各科目における成績評価の方法を確認することになり、シラバス記載の成績評価の方法やループリック等に基づく成績評価の実施につながっていった。
- ④ナンバリング等の検討は①の検討も含めて教務委員会、総務会等で行い個々の科目の位置づけの見直しをはかり、開講時期の変更につながった。幼児教育学科においては新法対応によるカリキュラム改正が一巡したことを受け、幼児教育学科関係職員に申請時の書類等を配布し、各

科目が含めなければならない事項等の確認を改めて行った再確認を実施した。

(2) 学生支援

- ①進路指導の強化については、昨年度は初めてのコロナウイルス感染症の拡大でもあり対応に困難を極めたが、令和3年度はオンラインによるセミナーやオンラインによる説明会、さらにはオンライン面接にも慣れてきた部分もあり、前年度に比較するとそれらへの対応はある程度順調に進んだ。オンラインによるものへの対応を図るための設備の充実や操作方法等の習熟など、教職員と学生がともに昨年以上にレベルアップした。

結果としては例年と遜色ない就職実績となった。コロナ終息後の就職活動がどのようなものか、現時点では不透明であり、指導する側も様子をうかがっている状況である。ただし、どのような状況になろうと、本学の自主独立の建学の精神を備えた学生を育てていけば対応が可能と考えている。

- ②GPAを用いた学生指導は両学科において時期は計画とは異なったものの実施することができた。コロナウイルス感染症の影響もあり相談や指導は例年より多く、それらへの対応は順次おこなっていった。しかし当初設けた相談期間や指導期間は昨年度も補講期間や延期になった実習期間に当てられ、ほぼ実行できなかったといつてよいかもしれない。ただし、奨学金や緊急給付金等の経済的な面の相談やその他の相談は計画された期間ではない日常の時間にこれまで以上の件数を行った。

- ③国による奨学金制度等の改正に伴う対応をはかった。

コロナウイルスの影響もあり学生、保護者に対し、家計急変等の急な経済的な問題が生じた場合は担任その他どの部署でもよいので相談するよう指導を行った。また入試説明会等において保護者に対し、修学支援制度について詳しく説明するとともに、入学前の2月に入学予定者の保護者を対象に再度修学支援制度についての説明を行うとともに、入学後の学習との関係についても文書を配布するなど修学支援制度が有効に活用されるよう指導を行った。

合わせてSD活動の一環として、教職員に対し修学支援制度の仕組みや警告や廃止の基準など改めて確認を行い、当該学生に対しこれまで以上に注意して指導にあたるよう確認を行った。

- ④課外活動、地域での活動等の活性化を図ることを計画として挙げてはいたが、こちらは予想以上の感染拡大により最も制限を受けた部分である。地域でのイベントは中止となり、学内での活動も制限され、感染状況を確認しながらわずかずつ行っていた活動も地域の方との交流といったことは全くできずに、学内の学生同士の交流にとどまってしまった。令和4年度に入りコロナウイルス感染症がやや落ち着いたこともあり4月以降徐々に地域での活動を行っている。ただし令和3年度は最も実施が困難だった課題であると考えている。

- ⑤学生指導へのICTの活用をより一層促進し、学生指導の充実を図ることを計画として挙げていたが、こちらは逆にコロナウイルスの影響で進んだ部分である。ただしやはり対面による相談や指導が今のところ最も効果があると感じている。しかし、長期休暇中などを含め学生との双方向のやり取りや、説明やセミナーをライブ配信するなどこれまでにはなかった試みが行われた。今後も引き続き工夫を重ね、授業や学生指導にもICTの活用を取り入れていきたいと考えている。またスマートフォンを使つての授業評価アンケートやクリック的な使い方をすることにより迅速に授業評価アンケートを含む各種のアンケート集計が可能となり、暖かさの残るうちに学生等にその結果を知らせることができることは大きなことと考えており、より工夫を重ねていきたい。

(3) 研究推進

- ①教員の教育能力の増進を目的に、授業参観、教職員の研修会（高校教育における探究的な学びの取組み等）のFD（ファカルティ・ディベロップメント）活動に取り組んだが、まだまだ十分とは言えない状況であり、引き続き積極的に取り組むこととしたい。
- ②グリーンブックを配布しこれまでも説明会を行ってきたが、今年も時間がなかなか取れない状況ではあったものの教授会終了後に3回ほど研究倫理及び研究費不正使用防止のための研修会を実施した。

(4) 運営管理（学生募集含む）および設備投資

- ①学長のもとに昨年度から教学マネジメント会議を立ち上げ、教育目的達成のために各種の話し合いを重ねてきた。当初の計画では以下の点を令和3年度の主要な取り組みとしたが、実際には新型コロナウイルス感染症への対応が中心となり、授業の実施方法、オンライン授業実施のための準備、教職員への学習会の実施、授業時間の確保等や課外活動や寮生活の在り方、実習の受け入れ不可への対応から最悪の場合を想定した実習の代替措置の検討、学年暦の組み換え、学内の感染防止対策、感染症が拡大する中での学生募集の在り方や入試方法の検討など様々な面に影響が及び、以下の計画が十分に行えなかったというのが正直なところである。新型コロナウイルス感染症への対応から、その中での授業運営方法や学校運営方法の検討を行い、頻繁に教員に説明を行い、同時に研修も行い対応を図ったことから当初考えたFDやSD研修とは異なってはしまったが、ICTの活用進んだという点では、ある意味FDやSD活動が否応なく充実したともいえる状況であった。下記の項目については検討が進み、令和4年度の学生便覧等に反映されたものもあるが、十分に行えなかったものもあり、引き続き次年度も積み残しの検討にあたりたいと考えている。

ただしICTの活用については教職員にも温度差があり、そのよい部分を取り入れて改善をはかれた部分と逆にそのことを学ぶための時間がとられ、思うように進まない部分もあった。

- ・3つのポリシーに基づく学習目標の具現化
 - ・授業科目・教育課程の編成
 - ・学習成果の可視化
 - ・上記3項目の実現のためにFD（ファカルティ・ディベロップメント）SD（スタッフ・ディベロップメント）のさらなる充実推進を図る
 - ・教育情報の公表
 - ・自己点検評価の推進及び認証評価機関による評価に向けた取り組みを行う。
- ②入試制度や日程の見直し、入試の各項目の評価の在り方等すべてにわたって見直しを実施し、実行した。新型コロナウイルス感染症への対応に迫られたことやオンライン授業の円滑な運営等に力点が置かれたこともあり、十分にインターネットを使った広報活動に取り組むことができなかった点は反省点である。同時に幼児教育学科の入学者回復を図れなかったことも大きな反省点である。

ただし総合型選抜、学校推薦型選抜の入学手続き者に対する入学準備授業の面では、オンライン授業の運営に取り組んだ成果を発揮することができ、令和4年度の授業等にも一定の効果があったものと考えている。

募集段階においてさらに ICT を活用すべきであった点は大きな反省点と考えており、令和 4 年度はオンラインによるイベントや受験者等からの相談に応じる場所等をつくり、距離や時間を考えずに可能な限り本学の特色を伝えていきたいと考えている。

- ③公開講座等の開講については感染リスクを下げなければならないこともあり、実施することが困難となり、すべて中止とした。科目等履修生、社会人入学については計画通りに広報はできなかったものの合間を縫って説明会等を実施したこともあり令和 4 年度の科目等履修生 4 名、社会人 4 名の入学者につながった。
- ④校舎及び施設設備の補修・改修を実施する計画ではあったが、令和 3 年度も WIFI 設備の導入、飛沫防止パネル、消毒液の購入、オンライン授業及びオンライン面接用のコンピュータ及び必要な周辺機器購入を行ったことから、補修・改修計画は一部の LED 化の実施にとどまることとなった。

II 教育研究の概要

(1) 教育研究上の基本となる組織に関する情報

大学等名	学科名	備考
信州豊南短期大学	言語コミュニケーション学科	
	幼児教育学科	

(2) 教員組織及び教員数並びに教員の保有学位、業績に関する情報

大学等名	学科名	教員数
信州豊南短期大学	言語コミュニケーション学科	8 名
	幼児教育学科	9 名
【教員の保有学位または職務上の実績等】 博士号 1 名、修士 13 名 令和 3 年度研究紀要第 39 号発刊 同研究紀要論文執筆者 2 名		

(3) 学生に関する情報

信州豊南短期大学	【入学に関する基本的な方針】 言語コミュニケーション学科、幼児教育学科ともアドミッションポリシーを定め、それにもとづき学生募集を実施。求める学生像との関係、本学で学ぶにふさわしい能力と意欲を備えているかについて、試験種別ごとに確認し入学させるものとしている。 (令和 4 年 5 月 1 日現在)					
	学科名	入学者数	収容定員	在学者数	前年 3 月 卒業者数	進学者数
	言語コミュニケーション学科	59	200	129	42	2
	幼児教育学科	41	200	85	46	0

	【卒業後の進路・就職状況等】 ・言語コミュニケーション学科 令和４年３月末の就職率は 91%。 主な就職先は長野県職員、辰野町職員、アルプス中央信用金庫、タカサワ、エルエスコ ポレーション、医学生物研究所、二光、サンビジョン、JA 長野、その他。 ・幼児教育学科 令和４年３月末の就職率は 100%。 主な就職先は、上田市職員（保育士）、須坂市職員（保育士）、諏訪市職員（保育士）、駒 ヶ根市職員（保育士）、茅野市職員（保育士）、辰野町職員（保育士）、箕輪町職員（保育 士）、信学会幼稚園・保育園、聖ヨゼフ幼稚園、よしだ幼稚園、四賀アイアイ、その他。
--	--

(4) 教育課程に関する情報

言語コミュニケーション学科教育課程

令和4年5月1日現在

科目の種別	授業科目名	授業形態			単位			教員配置			備 考
		講義	演習	実習	必修	選択必修	選択	専任	兼任	兼任	
教養科目	日本語表現Ⅰ		○		2			○			} 1単位 選択必修
	日本語表現Ⅱ		○		2			○			
	日本語表現Ⅲ(就職対策)		○		1			○			
	スタディスキル		○		1			○			
	コミュニケーションスキルⅠ		○			1				○	
	コミュニケーションスキルⅡ		○			1				○	
	Basic EnglishⅠ		○			2		○			
	Basic EnglishⅡ		○			2		○			
	情報基礎演習		○		1			○			
	Excel演習		○			1		○			
	情報と社会		○			1		○			
	キャリアデザイン		○			1				○	
ゼミナール	コミュニケーションゼミ		○		1			○			
	課題探究ゼミ		○		1			○			
	専門ゼミ		○		2			○			
専門プログラム	心理学の基礎Ⅰ	○					2		○		
	心理学の基礎Ⅱ	○					2		○		
	発達心理学Ⅰ	○					2			○	
	発達心理学Ⅱ	○					2			○	
	臨床心理学Ⅰ	○					2			○	
	臨床心理学Ⅱ	○					2			○	
	医療事務Ⅰ	○				2				○	
	医療事務Ⅱ	○				2				○	
	医療事務Ⅲ	○				2				○	
	手話Ⅰ		○			1				○	
	手話Ⅱ		○			1				○	
	生命と倫理	○					2		○		
	社会福祉論	○					2		○		
	児童福祉論	○					2		○		
	健康スポーツ			○			1			○	
	生涯スポーツⅠ			○			1			○	
	生涯スポーツⅡ			○			1			○	

科目の種別	授業科目名	授業形態			単位			教員配置			備考
		講義	演習	実習	必修	選択	自由	専任	兼任	兼任	
専門プログラム	人と文学		○				1	○			
	現代思想	○					2	○			
	古典文学の流れ	○					2			○	
	近代文学の流れ	○					2	○			
	源氏物語	○					2			○	
	幻想小説	○					2	○			
	短編小説を読む	○					2	○			
	書道Ⅰ		○				1			○	
	書道Ⅱ		○				1			○	
	ペン習字		○				1			○	
	朗読演習Ⅰ		○				1	○			
	朗読演習Ⅱ		○				1	○			
	児童文学論	○					2			○	
	詩・短歌を作る		○				1	○			
	映画の表現と方法	○					2	○			
	サブカルチャー研究Ⅰ	○					2			○	
	サブカルチャー研究Ⅱ	○					2			○	
	マンガ研究	○					2			○	
	アニメ論	○					2			○	
	人間と言葉		○				1	○			
	英語学概論	○					4	○			
	観光英語		○				1			○	
	English WorkshopⅠ		○				1			○	
	English WorkshopⅡ		○				1			○	
	英語で話そう(Oral EnglishⅠ)		○				1			○	
	Oral EnglishⅡ		○				1			○	
	Oral EnglishⅢ		○				1			○	
	Oral EnglishⅣ		○				1			○	
	ReadingⅠ		○				1	○			
	ReadingⅡ		○				1	○			
	英語発音法	○					2			○	
	TOEIC・英検対策Ⅰ		○				1	○			
	TOEIC・英検対策Ⅱ		○				1	○			
	TOEIC・英検対策Ⅲ		○				1	○			

令和4年5月1日現在

- 12 -

図書館司書養成課程

令和4年5月1日現在

科目の種別	授業科目名	授業形態			単位			教員配置			備 考
		講義	演習	実習	必修	選択	自由	専任	兼任	兼任	
図書館司書資格	生涯学習概論	○			2			○		○	
	図書館概論	○			2			○			
	図書館制度・経営論	○			2			○			
	図書館情報技術論	○			2				○		
	図書館サービス概論	○			2			○			
	情報サービス概論	○			2			○			
	児童サービス論	○			2					○	
	情報サービス演習Ⅰ		○		1			○			
	情報サービス演習Ⅱ		○		1			○			
	図書館情報資源概論	○			2					○	
	情報資源組織論	○			2			○			
	情報資源組織演習Ⅰ		○		1			○			
	情報資源組織演習Ⅱ		○		1			○			
	図書館サービス特論	○				1				○	
	図書館情報資源特論	○				1				○	
	図書館総合演習		○			1		○			
	図書館実習			○		1		○			

学校司書養成課程

令和4年5月1日現在

科目の種別	授業科目名	授業形態			単位			教員配置			備 考
		講義	演習	実習	必修	選択	自由	専任	兼任	兼任	
学校司書	学校図書館概論	○			2			○			
	図書館情報技術論	○			2				○		
	図書館情報資源概論	○			2					○	
	情報資源組織論	○			2			○			
	情報資源組織演習Ⅰ		○		1			○			
	情報資源組織演習Ⅱ		○		1			○			
	学校図書館サービス論	○			2					○	
	情報サービス論	○			2			○			
	情報サービス演習Ⅱ		○		1			○			
	情報サービス演習Ⅰ		○		1			○			
	学校教育概論	○			2				○		
	学習指導と学校図書館	○			2					○	
	読書と豊かな人間性	○			2			○			

幼児教育学科教育課程

令和4年5月1日現在

科目の種別	授業科目名	授業形態			単位			教員配置			備考
		講義	演習	実習	必修	選択	自由	専任	兼任	兼任	
基礎科目	基礎ゼミ		○		1			○			
	課題探求ゼミ		○		1			○			
	社会人基礎力演習		○		1					○	
	日本語表現演習		○		1			○			
	情報基礎演習Ⅰ		○		1					○	
	情報基礎演習Ⅱ		○		1					○	
	保健体育	○				2		○			
	生涯スポーツ		○		1			○			
	日本国憲法	○				2				○	
	Oral EnglishⅠ		○		1					○	
	Oral EnglishⅡ		○			1				○	
	環境問題演習		○			1		○			
専門教育科目	保育者論	○			2			○			
	教育原理	○			2			○			
	保育原理	○			2			○			
	教育社会学	○					2	○			
	教育・保育の心理学	○			2			○			
	特別支援教育	○			2			○			
	教育・保育課程論	○			2			○			
	幼児と健康		○		1			○			
	幼児と人間関係		○		1			○			
	幼児と環境		○		1			○			
	幼児と言葉		○		1			○			
	幼児と表現(音楽)		○		1			○			
	幼児と表現(造形)		○		1			○			
	保育内容総論		○		1			○			
	保育内容の指導法(健康)		○		1			○			
	保育内容の指導法(人間関係)		○		1			○			
	保育内容の指導法(環境)		○		1			○			
	保育内容の指導法(言葉)		○		1			○			
	保育内容の指導法(表現・音楽)		○		2					○	
	保育内容の指導法(表現・造形)		○		1			○			
	乳児保育Ⅰ	○			2					○	
	乳児保育Ⅱ		○		1					○	

幼児教育学科教育課程

令和4年5月1日現在

科目の種別	授業科目名	授業形態			単位			教員配置			備 考
		講義	演習	実習	必修	選択	自由	専任	兼任	兼任	
専門教育科目	教育方法論	○					2	○			
	子どもの理解と援助		○				1	○			
	教育相談	○					2	○			
	教育実習			○			5	○			
	教職実践演習		○				2	○			
	保育の表現技術(音楽Ⅰ)		○		1			○			
	保育の表現技術(音楽Ⅱ)		○		1			○			
	保育実践演習Ⅰ		○		1			○			
	保育実践演習Ⅱ		○		1			○			
	保育実習指導ⅠA		○				1	○			
	保育実習指導ⅠB		○				1	○			
	保育実習ⅠA(保育所)			○			2	○			
	保育実習ⅠB(施設)			○			2	○			
	保育実習指導Ⅱ		○				1	○			
	保育実習Ⅱ			○			2	○			
	保育実習指導Ⅲ		○				1	○			
	保育実習Ⅲ			○			2	○			
	保育の表現技術(音楽Ⅲ)		○				1	○			
	保育の表現技術(音楽Ⅳ)		○				1	○			
	保育技術演習(音楽遊び)		○				1			○	
	保育の表現技術(造形)		○				1	○			
	子ども文化研究		○				1			○	
	自然体験活動		○				1	○			
	子どもの保健	○					2			○	
	子どもの健康と安全		○				1			○	
	子どもの食と栄養		○				2			○	
	障害児保育Ⅰ		○		1			○			
	障害児保育Ⅱ		○		1					○	
	子ども家庭支援論	○					2	○			
	社会的養護Ⅰ	○					2	○			
	社会的養護Ⅱ		○				1			○	
	手話		○				1			○	
	子ども家庭福祉	○					2	○			
	社会福祉	○					2			○	

幼児教育学科教育課程

令和4年5月1日現在

科目の種別	授業科目名	授業形態			単位			教員配置			備 考
		講義	演習	実習	必修	選択	自由	専任	兼担	兼任	
	子育て支援		○				1	○			
	子ども家庭支援の心理学	○					2			○	

(5) 学習の成果に係る評価及び卒業の認定に当たっての基準に関する情報

大学等名	学科名	修業年限	必要修得単位数	科目区分ごとの修得単位数		取得可能な学位及び専攻名称
				必修	選択	
信州豊南短期大学	言語コミュニケーション学科	2年	62単位	11単位	52単位	短期大学士(言語コミュニケーション)
	幼児教育学科	2年	62単位	40単位	22単位	短期大学士(教育学)

(6) 学習環境に関する情報

大学名等	学科	所在地	主な交通手段
信州豊南短期大学	言語コミュニケーション学科	長野県上伊那郡辰野町中山 72	JR 飯田線辰野駅下車 徒歩 25 分／同宮木駅 徒歩 15 分
	幼児教育学科		
	【キャンパスの概要】 校地は緑に覆われた本物の自然環境にめぐまれたキャンパスとなっている。学生が通常通学に使う部分については安全面に配慮し、他の部分については、豊かな自然環境を可能な限り活かし、この環境下において教員の指導のもとに安全に自然体験活動など自然環境を有効に活用した授業・課外活動がより一層展開できるよう検討が加えられている。 校舎についてはすべてが耐震基準を満たした構造であり、アスベストについても問題はない。 教室の 80%には電子黒板システムが設置されており、授業に活用されている。各教室への WIFI 環境の導入も急速に進み、ごく一部の教室をのぞいて WIFI の環境が整備された。WIFI 環境のない教室にも有線 LAN は設置されている。また本学の校舎は体育館を含めすべての建物がつながっており、一度校舎内に入れば教室移動に雨風の心配はない作りになっており、体育館もそのような一角にあり使い勝手はよい。 学内には 250 名を収容できる学生食堂（飛沫防止パネル設置済み）、学生ホール、学生玄関ホールなどがあり、テーブルや椅子、ベンチ、自販機等が用意され休息所として利用されている。 また、キャンパスの中に「茶室」「礼法室」が別棟で建てられており、心の落ち着く空間となっている。主に茶道部、津軽三味線部などクラブの練習に使われているが、ゼミなどで利用することも可能となっている。		

信州豊南短期大学	【課外活動の状況】 令和3年度時点で、本学の公認クラブは、文化系12団体（前年度2団体減）、体育系5団体（前年度同数）の計17団体が活動している。すべての団体の顧問は専任の教職員が担当することになっており、津軽三味線部は、地域の行事、イベントに参加し地域での活躍、認知度も高いクラブである。また、書道部は大学書道展、日本で最も大きな書道展である毎日書道展などに数多くの学生が入賞し、団体表彰を受けており、「長野県現代書藝展」においても毎年多くの学生が入賞し、特選や長野県知事賞など大活躍している。 活動資金は学生会のクラブ費で賄っており、年間の予算計画に基づき活動している。配分は毎年、学生会と各クラブ代表との間で行われる4月の新年度予算折衝を経て、5月上旬の学生会総会で決定される。学生会は執行委員長をはじめとする19名の執行委員で構成されており、事業計画・実施予算計画、学生会総会、スポーツ大会、学生会役員選挙、全国私立短期大学体育大会、長野県私立短期大学体育大会、学園祭、バスハイク、海外研修旅行、決算等各種の行事を学生部との協議を経て、学校側と話し合いながら運営に当たっている。

（7）学生納付金に関する情報

大学名等	学科名	入学料		授業料		その他徴収費用	
		金額	納入時期	金額	納入時期	金額	納入時期
信州豊南短期大学	言語コミュニケーション学科	200,000 円	入学手続時	760,000 円	4 月、9 月末	210,000 円	4 月、9 月末
	幼児教育学科	200,000 円	入学手続時	760,000 円	4 月、9 月末	250,000 円	4 月、9 月末

（8）学生支援と奨学金に関する情報

【学生支援組織】

項目	組織名	機能
就職等進路支援	進路指導委員会・キャリア支援室	入学時から進路決定に至るまでの時々の状況において進路希望調査、履歴書等の書き方、面接等、外部有識者・企業関係者・卒業生等による講演会の実施などを通じ進路指導及びその支援を行っている。
履修支援	教務委員会・教務学生課	前期、後期のガイダンス、フレッシュャーズキャンプ等における履修指導相談、ゼミ担当者による面談等に加え、学生個々の希望と一体となった円滑な履修指導を行なう。障害者支援室とも連携を取っている。
生活支援（住居・アルバイト等）	学生部・総務課・教務学生課	寮、アパート等の紹介およびアルバイト等の紹介、また学生寮における生活面での指導助言を行なう。
保健・メンタルヘルス	学生相談室・医務室	両学科の心理学担当教員および医務室勤務の担当者らで構成する学生相談室において心のケアを実施。けが病気等については医務室勤務の担当者が対応している。
障害者支援	障害者支援室	学習相談や遅れの目立つ学生に対する補修も実施している。各種の障害をもつ学生の相談に応じ、合理的な配慮を行っている。

【信州豊南短期大学の独自奨学金制度】

種 類	要 件	申込方法
第 1 種奨学生	入学試験で選考。高校の評定平均値 3.5 以上の者で奨学生入試における合格者に授業料の全額または半額を免除	入学試験において出願、選考。
第 2 種奨学生	1 年次の学業成績、人物、出席状況、大学行事への参加等を考慮し、「奨学生選考基準」により選考。	成績等により選考されることから申込は不要。
第 3 種奨学生	学業・人物とも優秀な学生で、かつ経済的理由により、就学が困難であると認定された者に奨学金（授業料半額相当を上限とする）を給付。	第 3 種奨学生願書に所得証明等の必要書類を添付して申込。 （一部は入学試験時に出願、一部は入学後必要に応じ応募）

Ⅲ 管理運営の概要

【ガバナンス】

学校法人の重要な意思決定は理事会で行われている。当該年度の予算、決算、学長の任免、専任教員の任免、理事会等の招集運営、その他法人運営上重要な事項はすべて理事会で決定されている。法人（理事会）を代表する理事長は当該理事会及び評議員会等学園の重要会議においてリーダーシップを発揮し、会議の円滑な運営を行っている。

また、理事会での意思決定の前に教学側（短期大学側）と常任理事等との間で十分な協議を経ることで円滑な運営が可能となっている。

短期大学の運営は、理事会等の意向を受け学長を中心に業務の執行を行っている。学校教育法の改正に伴い、学長の権限や教授会規程その他の見直しにより、審議機関としての教授会のあり方などを教授会等で説明し、教授会等の意見を求め学長が決定することを改めて確認し、運営にあたっている。

理事会、評議員会、短期大学の運営状況については監事はその状況を監査することとしている。

【自己点検評価】

平成 30 年 3 月 9 日付で第三者評価機関から適格認定を受けた。引き続き学校全体で自己点検評価に取り組み、よりよい短期大学運営に向けてその結果を活かしていきたいと考えている。

自己点検評価の結果、令和 3 年度は 3 つのポリシーの見直し、科目ごとの到達目標（学習成果）、科目間の連携についても再確認を行い、幼児教育学科においては令和 3 年度から一部科目の開講時期の見直しを実施。単位の実質化を図る意味でも準備学習が重要であることを踏まえ、シラバスの改訂にあたり各授業科目における授業計画ごとに準備学習の内容と目安の時間を示すことにした。また授業等を通じて身に着けるべき能力と成績評価の関係もシラバスに明示するとともに、ガイダンス等において十分に学生に周知を図ることを確認した。

また試験答案やレポート等の返却日を設け、解説を加えて学生に返却することにした。年に 2 回の計画を立てたが、昨年度は前期についてはコロナウイルスの関係で授業日程が延び実施を断念したが、令和 3 年度は前期、後期とも計画通り通り行うことができた。まだまだ不十分ではあるが毎年見直しを図り、学生の学習成果獲得や準備学習等につなげて行きたいと考えている。

【情報公開】

信州豊南短期大学のホームページにおいて以下の項目で情報公開を行っている。

●教育研究上の基本的な情報

- ・学科の名称及び教育研究上の目的
- ・専任教員数、各教員が有する学位及び業績
- ・校地、校舎、施設その他の学生教育環境
- ・授業料その他大学が徴収する費用

●修学上の情報等

- ・入学者に関する受け入れ方針、入学者数等
- ・授業科目、授業の方法及び年間授業計画
- ・学習の成果に係る評価及び卒業認定基準
- ・学生の修学、進路選択及び心身の健康に係る支援
- ・教育上の目的に応じ学生が修得すべき知識及び能力に関する情報

●財務の情報

- ・財産目録 ・貸借対照表 ・資金収支計算書 ・消費収支計算書
- ・事業報告書 ・監事の監査報告書

【施設設備の整備】

令和3年度はWIFI設備の導入、オンライン授業や面接で使用するためのコンピュータの更新を行った。それら以外は飛沫防止パネル等の感染防止対策のための整備を図った。

(4) 上記以外の特徴ある取り組みの概要

①教学マネジメント会議を設置

学長のもとに、大学がその教育目的を達成するために管理運営を行う組織として、教学マネジメント会議設置。学生の学習時間を把握するための調査を実施し、その結果を教授会に発表するとともに、学生に資料として配布した。これらを受けて準備学習の在り方についての検討を行った。また学習成果の可視化に関する議論をより一層深めていくこととした。

②国際交流の概要（令和4年4月現在はコロナウイルス感染症の関係で休止している）

言語コミュニケーション学科ではニュージーランド・クライストチャーチのカンタベリー大学（交流協定締結時はクライストチャーチ教育大学）と平成5年5月に交流協定を締結し、平成6年2月に第1回の留学生14名が同大学に留学、令和3年4月までに271名の学生が留学を経験しています。1セメスターの長期留学、留学しても2年間で卒業が可能で、留学前と後のTOEICを活用した自己診断、現地教員との連携、ホームステイによる英語漬けの環境構築といった特色を有する留学制度であり、現地で修得した15単位はすべて卒業要件単位として認定。この留学制度の発足をきっかけに、本学が間を取り持ち、地元辰野町がニュージーランドのワイトモ地区と交流を行っている。

③社会貢献・連携活動の概要

辰野町沢底区と「地域連携協定」を締結し、以後学生及び教員の派遣、また本学の授業を沢底区との協力のもとに実施しています。また、「伝統文化」を開放科目として開講。多くの地域の方が受講しました。

社会人受け入れに積極的に取り組み、科目等履修生の説明会を開催し、短期大学の持つ情報を地域みなさんに提供するとともに、科目等履修生としての学びにつながっている。

上記については新型コロナウイルス感染症との兼ね合いで令和3年度は十分に行うことができなかった。やや落ち着いてきた令和4年4月以降は徐々に活動を開始している。

豊南高等学校

I 当該年度の主な事業の概要

1. 事業の主な目的・計画

(1) 教育等の充実

①新指導要領に対応したカリキュラムの策定

②教員研修の実施

・学務部企画による教員の授業力アップのための授業見学の策定。

③学習方法の多様化に応える

・スタディー・ラボの活用について

自学自習の定着を図ることを目的とする。

授業内容の定着を図る。

授業での「伸びこぼし」「落ちこぼれ」を極力防ぐため、そのレベルに対応するシステムとして活用する。

スタディー・ラボ制度導入三年目に当たるので、総括の上、提携業者見直しの為入札を行った。

④GIGA スクール構想に基づく校内 LAN や ICT 環境の整備

・電子黒板、プロジェクターの導入による、授業の効率化等の検証。

・ほぼ全教室内に電子黒板の設置完了。

・令和5年度より一人一台パソコン導入の決定。

⑤特進コースの充実

・特進、選抜両コースについて、募集状況・進学実績・外部環境要因などを加味し、基準の見直し、コース再編を令和4年度以降2～3年かけて検討していく。

(2) 生徒募集

①全校生徒数 900 名の安定的確保を図る。

②引き続き、学習塾組織、中学校、その他協力者との信頼関係を一層強固なものにする。

③学校ホームページの充実を図る。

④特待Ⅲを活用した募集活動による単願志願者の確保

(3) 運営管理及び設備投資

①第一校舎の大改修に向けての年次計画の策定。

・LED 照明化は見送った。

・防犯カメラの設置は見送った。

・下駄箱の交換を一部実施した。

- ・音楽室の移設を行った。
- ・生徒数の増加と選択授業用教室の充実を図るため、第二グラウンド内に、第三校舎の建設をした。(4 教室増加)

②教員採用の強化

- ・常勤講師制度を検討、制度化し、令和 4 年度採用者より実施可能にした。

③強化指定クラブを中心とした部活動の活性化

④志木の総合グラウンドの台風 19 号被害からの復旧工事およびその活用

- ・苦情の対象となっている運動部の活動場所として志木総合グラウンドを検討し、硬式野球部とサッカー部については、活動を原則志木総合グラウンドで行うこととした。

⑤働き方改革

- ・部活動の複数顧問制、通学路指導、生徒下校後の校舎警備施錠については、可能なものから順次行っている。

⑥特待制度の検証

⑦生徒指導力のアップを図り、転退学者の減少を目指す。

- ・ H28(26 名) H29(34 名) H30(20 名) R1(10 名) R2(12 名)

⑧授業料値上げの検討

- ・ H23 に 36 万円から 42 万円に値上げ。
- ・ R2 年度より授業料軽減額として上限 456,000 円支給される対象を、世帯収入 760 万円から 910 万円に引き上げ

⑨近隣住民と良好な関係の構築

(4) 組織連携の強化

①法人本部と連携し、学納金および経費予算管理の徹底化を図る。

②校務システムを利用した証明書等の発行手続きの簡略化

II 教育の概要

1. コースに関する情報

当校では以下の 3 つのコースを設けております。

・ 特進コース

0 限授業や放課後講習など充実した学習量となっています。国公立大学、難関私立大学進学を目指すコースで、少数精鋭のクラス編成で高い目標を達成できるカリキュラムが組まれています。

・ 選抜コース

課外活動に力を注ぎながら勉学に励むコースです。中堅、難関大学進学を目指します。学習とクラブ活動や生徒会活動を積極的に両立させ、学校の中核として活躍したいという意欲を持つ生徒のためのコースです。

・ 進学コース

学校生活を楽しみながら学力を着実に積み上げるコースです。第一志望校への進学を実現することを目指しています。四ターム制のもとで、学習にもクラブ活動にも十分な時間が確保され、

元気いっぱいの学校生活を過ごすことができます。きめ細やかな指導方針で生徒一人ひとりの面倒をじっくりとみることができる態勢を整えています。

2. 生徒に関する情報

- 在籍生徒数（令和3年5月1日現在）

1年生 345名 2年生 329名 3年生 256名 合計 930名

- 令和2年度卒業生の進学実績

四年制大学への現役合格率は5年連続70%を超えています。令和2年度卒業生は、75%。
 今後は、国公立大学、難関私立大学を始めとする上位校といわれる大学にもたくさんの合格者を出すことを目標としていきます。

3. 学習環境に関する情報

- 校舎は東京都豊島区高松の閑静な住宅地の中にあります。恵まれた静かな環境の中で生徒たちは勉強に励んでいます。
 また、埼玉県志木には総合グラウンドがあり、主に課外活動等に利用されています。
- 夏の海外語学研修・冬の短期留学制度により、語学学習のモチベーションアップ、国際理解、自己啓発を図っています。

4. 入学時納付金・授業料等納付金に関する情報

- 入学時納付金

	令和3年度
入学金	240,000 円
施設拡充費	100,000 円
P T A入会金	5,000 円
合 計	345,000 円

- 授業料等納付金

	令和3年度	
種目	年額	1期分
授業料	420,000 円	105,000 円
施設補修費	72,000 円	18,000 円
旅行積立金	62,000 円	15,500 円
副教材等諸費	116,000 円	29,000 円
P T A会費	15,600 円	3,900 円
生徒会費	9,600 円	9,600 円
口座振替手数料	800 円	800 円
合 計	696,000 円	193,500 円

* 就学支援金控除前の金額を表示しています。

豊南幼稚園

I 当該年度の主な事業の概要および進捗状況

1. 事業の主な目的・計画

- ・ 楽しい幼稚園生活の中で、日常の生活習慣を養い、丈夫で明るい子、自立心のある意欲的な子を育てます。
- ・ のびのびと遊びを通した総合的教育の中で多くを体験し、また一人ひとりの個性を大切に育てます。
- ・ 地域の幼児保育ニーズに対応していく幼稚園を目指します。

2. 進捗状況

- ・ 2歳児教室開催や、授業時間外の預かり保育なども行い、園児が楽しく幼稚園生活がおくれるように努めています。
- ・ コロナ禍ではありますが、可能な限りコロナ前の行事の開催に向けて準備いたします。
こどもの日、七夕祭り、夏の日集い（露店ごっこ）など、季節の行事に加え、地域の公共・文化施設を中心とした「園外保育」やお誕生会を毎月実施・園児たちが楽しめる内容にしています。
- ・ 保育の一環として外部から専門教師を招き、週1回体操指導、月2回リトミック指導を行なっています。

II 教育の概要

1. コースについて

- ・ 年少（3歳児）、年中（4歳児）、年長（5歳児）の学年別保育を実施しています。
- ・ 尚、2歳児教室を開催し、プチ幼稚園生活を体験できるようにしています。

2. 園児に関する情報

- ・ 在籍園児数（令和3年5月1日現在）

年少（3歳児） 15名 年中（4歳児） 20名 年長（5歳児） 23名 計 58名

3. 保育環境に関する情報

- ・ 豊島区高松の豊南高等学校の敷地の中にあります。
広いグラウンドやホールなど思いっきり遊べる環境が準備されています。
- ・ 安全な環境・明るい保育室となっています。
高等学校と一体化した警備保安システムが完備しています。明るい保育室とあいまって、園児が安心してのびのび過ごせる環境となっています。

4. 入園時納付金・保育料に関する情報

- ・ 入園時納付金

入園料 100,000 円

- ・ 月間保育料等

保育料 22,000 円

母の会費 1,000 円 諸費用 1,500 円 冷暖房費 1,500 円

施設維持費 3,000 円（平成 28 年度以降の入園者） 計 29,000 円

※年度初めに口座振替手数料 800 円を上記と合わせ徴求しております。

(1) 資金収支計算書

「資金収支計算書」は、毎会計年度、当該会計年度の諸活動に対応するすべての収入及び支出の内容並びに当該年度における支払資金の収入及び支出のてん末を明らかにするものです。

令和3年度末の翌年度繰越支払資金は304百万円となり、前年比56百万円増加しております。

資 金 収 支 計 算 書

(単位:千円)

収入の部				
科 目	令和元年度	令和2年度	令和3年度	前年度比
学生生徒等納付金収入	669,757	724,341	712,720	▲11,621
手数料収入	25,416	25,509	27,635	2,126
寄付金収入	2,990	745	10,764	10,019
補助金収入	458,716	498,566	489,674	▲8,892
資産売却収入	0	0	0	0
付随事業・収益事業収入	11,229	9,059	12,824	3,765
受取利息・配当金収入	431	1,817	1,070	▲747
雑収入	36,315	18,899	76,111	57,212
借入金等収入	750	500	250	▲250
前受金収入	137,340	140,350	159,085	18,735
その他の収入	2,556,767	2,763,248	2,711,946	▲51,302
資金収入調整勘定	▲216,829	▲302,653	▲311,354	▲8,701
前年度繰越支払資金	230,995	190,473	247,804	57,331
収入の部合計	3,913,879	4,070,859	4,138,531	67,672
支出の部				
科 目	令和元年度	令和2年度	令和3年度	前年度比
人件費支出	850,536	866,115	944,673	78,558
教育研究経費支出	202,000	298,418	342,798	44,380
管理経費支出	91,922	84,186	85,645	1,459
借入金等利息支出	3,768	3,552	3,336	▲216
借入金等返済支出	54,804	54,304	56,304	2,000
施設関係支出	13,003	4,345	59,010	54,665
設備関係支出	26,239	36,771	35,482	▲1,289

資産運用支出	1,852,500	1,812,000	1,656,000	▲156,000
その他の支出	737,989	732,024	772,643	40,619
資金支出調整勘定	▲109,359	▲68,664	▲121,919	▲53,255
翌年度繰越支払資金	190,473	247,804	304,557	56,753
支出の部合計	3,913,879	4,070,859	4,138,531	67,672

(千円未満は切り捨てて表示しております。)

(2) 事業活動収支計算書

「事業活動収支計算書」は、毎会計年度、当該会計年度の教育活動、教育活動以外の経常的な活動、それ以外の活動に対応する事業活動収入及び事業活動支出の内容を明らかにするとともに、当該会計年度において基本金に組み入れる額を控除した当該会計年度の諸活動に対応する全ての事業活動収入及び事業活動支出の均衡の状態を明らかにするものです。

教育活動収支については、教育活動収入が 1,313 百万円、教育活動支出が 1,510 百万円となり、教育活動収支差額が 197 百万円の支出超過となっております。

教育活動外収支差額が 2 百万円の支出超過、特別収支差額が 15 百万円の収入超過となっており、基本金組入前当年度収支差額は 184 百万円の支出超過となっております。

これに第 1 号基本金 103 百万円及び第 4 号基本金 9 百万円を組入れ、当年度収支差額は 296 百万円の支出超となり、前年度繰越収支差額が 2,151 百万円の支出超過であることから、翌年度繰越収支差額は 2,447 百万円の支出超過となっております。

事業活動収支計算書

(単位:千円)

教育活動収支	事業活動収入の部	科 目	令和元年度	令和 2 年度	令和 3 年度	前年度比
		学生生徒等納付金	669,757	724,341	712,720	▲11,621
		手数料	25,416	25,509	27,635	2,126
		寄付金	2,990	745	2,764	2,019
		経常費等補助金	458,716	498,566	479,674	▲18,892
		付随事業収入	11,229	9,059	12,824	3,765
		雑収入	38,181	28,556	77,422	48,866
		教育活動収入 計	1,206,290	1,286,779	1,313,040	26,261

教育活動収支	事業活動支出の部	科 目	令和元年度	令和 2 年度	令和 3 年度	前年度比
		人件費	850,536	866,115	944,673	78,558
		教育研究経費	326,937	421,305	468,722	47,417
		管理経費	101,346	93,995	93,872	▲123
		徴収不能額等	8,951	9,993	3,509	▲6,484
		教育活動支出 計	1,287,771	1,391,409	1,510,777	119,368
	教育活動収支差額		▲22,581	▲104,630	▲197,736	▲93,106
教育活動外収支	事業活動収入の部	科 目	令和元年度	令和 2 年度	令和 3 年度	前年度比
		受取利息・配当金	431	1,817	1,070	▲747
		その他の教育活動外収入	0	0	0	0
		教育活動外収入 計	431	1,817	1,070	▲747
	事業活動支出の部	科 目	令和元年度	令和 2 年度	令和 3 年度	前年度比
		借入金等利息	3,768	3,552	3,336	▲216
		その他の教育活動外支出	0	0	0	0
		教育活動外支出 計	3,768	3,552	3,336	▲216
	教育活動外収支差額		▲3,336	▲1,734	▲2,266	▲532
	経常収支差額		▲84,816	▲106,365	▲200,003	▲93,638
特別収支	事業活動収入の部	科 目	令和元年度	令和 2 年度	令和 3 年度	前年度比
		資産売却差額	0	0	0	0
		その他の特別収入	2,698	95	18,060	17,965
		特別収入 計	2,698	95	18,060	17,965
	事業活動支出の部	科 目	令和元年度	令和 2 年度	令和 3 年度	前年度比
		資産処分差額	0	1,682	0	▲1,682
		その他の特別支出	0	16,626	2,374	▲14,252
		特別支出 計	0	18,309	2,374	▲15,935
	特別収支差額		2,698	▲18,213	15,686	33,899

基本金組入前当年度収支差額	▲82,118	▲124,579	▲184,317	▲59,738
基本金組入額合計	▲47,961	▲48,152	▲112,537	▲64,385
当年度収支差額	▲130,079	▲172,731	▲296,854	▲124,123
前年度繰越収支差額	▲1,848,288	▲1,978,368	▲2,151,100	▲172,732
基本金取崩額	0	0	0	0
翌年度繰越収支差額	▲1,978,368	▲2,151,100	▲2,447,955	▲296,855

(千円未満は切り捨てて表示しております。)

(3) 貸借対照表

「貸借対照表」は、年度末における財政状態を表示したもので、資産・負債・純資産を表示しています。

資産の部については8,578百万円となり、対前年比203百万円の減少となっています。これは、固定資産の減少271百万円と流動資産の増加67百万円が要因です。

負債の部については1,282百万円となり、対前年比19百万円の減少となっています。これは、固定負債の減少89百万円と流動負債の増加70百万円が要因です。

純資産の部については、7,290百万円となり、対前年比184百万円の減少となっています。これは、第1号基本金の増加103百万円及び第4号基本金の増加9百万円と翌年度繰越収支差額の減少296百万円が要因です。

貸 借 対 照 表

(単位:千円)

資産の部				
科 目	令和元年度	令和2年度	令和3年度	前年度比
固定資産	8,712,586	8,450,108	8,178,452	▲ 271,656
有形固定資産	6,636,924	6,526,825	6,485,164	▲ 41,661
特定資産	1,852,500	1,701,000	1,496,000	▲ 205,000
その他の固定資産	223,161	222,282	197,287	▲ 24,995
流動資産	232,952	331,793	399,665	67,872
資産の部合計	8,945,538	8,781,902	8,578,118	▲ 203,784

負債の部				
科 目	令和元年度	令和２年度	令和３年度	前年度比
固定負債	1,056,045	990,170	900,333	▲ 89,837
流動負債	284,576	311,393	381,763	70,370
負債の部合計	1,340,621	1,301,563	1,282,097	▲ 19,466
基本金の部				
科 目	令和元年度	令和２年度	令和３年度	前年度比
基本金	9,583,286	9,631,438	9,743,976	112,538
第１号基本金	9,489,613	9,537,765	9,640,976	103,211
第４号基本金	93,672	93,672	103,000	9,328
繰越収支差額	▲1,978,368	▲2,151,100	▲2,447,955	▲296,855
純資産の部合計	7,604,917	7,480,338	7,296,021	▲184,317
負債及び純資産の部合計	8,945,538	8,781,902	8,578,118	▲203,784

(千円未満は切り捨てて表示しております。)

<Ⅳ> 対処すべき課題

本学校法人豊南学園を取り巻く環境は依然厳しい状況が続いています。当学園全体での最大の課題は財務内容の健全性です。その健全性を実現するには、学生・生徒等の増加が必須です。実現させるには、①学生・生徒等から支持され質の高い教育、②短大においては就職実績の向上と就職内容の更なる充実、③高校では難関といわれる大学への進学実績を向上させると同時に、クラブ活動の推進、④幼稚園では、地元ニーズに応える保育の提供実現が必要と考えます。

(１) 信州豊南短期大学

コロナウイルス感染症の状況をにらみながらの募集活動となり、苦戦を強いられたが、この点についてはどちらの学校も同様の状況である。だからこそその切り替えやそれを踏まえた試みが不足していた点是否めない。言語コミュニケーション学科においては前年度に入学者を回復することができたが本年度はやや減少してしまった。またさらなる入学者増を計画していた幼児教育学科は志願者入学者とも前年と変わらない数字となった。

言語コミュニケーション学科のオープンキャンパス参加者や接触者は前年に比べて１２％程度減少した。そのうち直接の受験対象者となる３年生の参加者も同様の結果となった。ただしこれらは延べの数字となっており、重複者ではなく絶対数で確認すると３年生の参加者数は前年度と変わらない。

オープンキャンパス等に参加した受験対象者（３年生等）のうち受験しなかった学生が令和３年度は前年度に比較して１３％増加した。言語コミュニケーション学科は１７％増、幼児教育学科は７％増となっている。ここから言えることはオープンキャンパスへの参加者で例年同様の受験者を確保した場合、言語コミュニケーション学科はかなり定員に近づくことができる。

またリクルートの詳細な調査によれば本学の現在の高校3年生における2年次の資料請求者が例年になく多いとの情報もあり、この接触者を受験者へと導いていく必要があると考えている。

幼児教育学科ではオープンキャンパスへの参加者が前年に比較してやや減少した。このことによる不安もあったが、結果は前年とほぼ同数の入学者となった。

高校訪問等も人の動きを減らすことが重要となっていることから十分な活動ができなかったこと、またオンラインでのイベント等の開催にすぐに対応することができなかったことなども反省すべき点と考えている。

いずれにしても来学者のうち受験に至らなかった者が増加したことがマイナスの要因であり、この反省をもとに来学者を受験者（入学者）に変えるための試みが必要になる。

令和3年度学生募集では入試制度が大きく変更になり、入学試験の実施時期がこれまでとは異なり、それらへの対応が十分ではなかったこともある。国の新たな修学支援制度のスタートの年で給付型の奨学金と授業料減免を同時に受けることが可能になったことから、これまで経済的に進学が難しい学生がこの制度に後押しされた部分もあり言語コミュニケーション学科の入学者増につながっていると考えられる。いずれにしても受験生に選ばれる学校にならないことから、カリキュラム、授業内容等様々な面の魅力アップに努めていくことが急務である。そのうえで長野県内、特に中信地区の募集強化を検討していきたい。

一方で幼児教育学科の募集についても同様に検討していく必要があると考えている。

コロナ禍の中で授業を運営していきただけでもこれまでにない大変さがつきまとっていたわけだが、加えて学生募集、広報活動面では対応が極めて難しい状態となった。これまでの方法の見直しが迫られている。令和4年度はこれまでの経験を活かして、前年を上回る成果を上げるべく努力していきたいと考えている。

（2）豊南高等学校

従来から種々の改革に取り組んでいますが、目標にはまだ届いておりません。進学実績の向上、クラブ活動の活性化を更に推進していく必要があります。

財務面では、①収支の均衡を図ることで経営基盤を安定させる。②教育内容の充実を図る。以上2つを目的に財務内容の見直しに着手してまいりました。

令和元年度入学者が265名（前年比－45名）、令和2年度入学者が339名（前年比+74名）、令和3年度入学者が345名（前年比+6名）となり回復傾向にあります。また、単願者数の推移は、令和元年度入学者が92名（前年比－22名）、令和2年度入学者が134名（前年比+42名）、令和3年度入学者が178名（前年比+44名）となり、進学実績の向上と共に、部活動の活性化が受験生に伝わってきていると考えます。しかしながら、より教育内容の充実を図り、成果に結びつけ、安定的に生徒数を確保するために具体的な方策を講じ、実行しなければならないと考えます。

生徒の学習習慣の確立、授業内容の定着を図るための具体策として、リソー教育グループ、スクールトーマスと提携をし、生徒の放課後学習支援システムを構築してまいりました。部活動参加者も活動終了後1時間～2時間、学校内で学習を完結して下校するという制度です。このスクールトーマスとの提携により、今後、教員の働き方改革の推進、労働時間の短縮の方策の具体化にもつながり、更に生徒の文武両道の推進も図れると考えています。なおスクールトーマスとの提携も三年目を迎えていたので、令和4年度以降さらなるレベルアップを図るため、新たな提携先を模索し、入札により令和4年度以降は城南進学研究社と提携することとしました。

また、本校の校地である志木総合グラウンドが一昨年の台風被害を受け、水没したのを機に、全

面改修工事を行い、授業と部活動に安心して使えるよう整備を始めました。遠隔授業の規制が緩和されたこともあり、発展的に利用できるよう、引き続き検討し、整備を続けてまいります。

併せて、21世紀の社会で活躍できる人材を育成するため、授業内容・教授方法の見直し等、新学習指導要領に則した教育内容の検討に入りました。それに伴うICT化を進め、令和3年度にはほぼ完成しました。新カリキュラムの「探究」の中身を特色の一つに加えて、5年の間に、次に向けて安定的に支持される学校の土台を築きたいと考えています。

（3）豊南幼稚園

令和元年度24名、令和2年度18名、令和3年度15名と入園園児数の減少が進んでいる状況である。3歳入園児の安定的な確保の為、例年就学前保育として募集している2歳児「ひよこ組」の募集人員確保を図っているが、20名募集に対して半数程度の確保にとどまっている状況である。募集時期の検討を含め、3歳児入園者の安定確保を目指して活動してまいります。また、コロナ禍での園活動は、各種行事の一斉中止の令和2年度とは異なり、運動会の時間短縮での開催等、徐々にコロナ前の状態に戻すべく、感染に注意を払い、活動範囲を広げている状況です。